

「共同募金改革推進モデル支会支援事業 事業報告書」（平成22年度分）

I. 概要

1 支会名	宇治市共同募金会
2 事業名	市民・各種団体への共同募金啓発活動

II. 事業概要

1 事業の目的

共同募金に対する理解を深めるための取り組みを実施し、市民に共同募金が身近な取り組みであることを伝え、広く協力を呼びかけられるようにする。
特に次世代への意識付けをおこなう事業を検討し、共同募金が「地域福祉活動」の一環であることを児童の頃から理解してもらえらるるようにする。

2 事業内容

実施した会議・委員会やイベント等の実施日・参加者・主な協議内容、作成物の内容や配布先等を記入してください（別紙可）。

別添資料1～3参照

資料1：平成22年度 モデル事業関係会議・研修等活動報告

資料2：研修 赤い羽根全国ミーティング参加報告

資料3：研修 黒部市共同募金会、小浜市共同募金会視察報告

3 事業の成果

他地域への成果普及のため具体的にご記入ください。なお、当該項目について、別途冊子等にまとめている場合は、そちらを添付いただければ結構です。

(1) 事業の成果

別添資料2・3

資料2：研修 赤い羽根全国ミーティング

資料3：研修 黒部市共同募金会、小浜市共同募金会視察報告

(2) 当初の予定・ねらいと成果の比較

平成 23 年度の事業実施に向けた準備期間として実施。

年間を通じての事務局内会議や幹事会、総会時に受けた意見、研修で感じたことなどを経て、現在、共同募金運動を展開している問題点などをあらいだすことができ、その解決にむけての企画をすることができた。

(3) 事業の進め方についての振り返り・評価

上記に記入したとおり、本会の共同募金運動を展開している中での問題点について確認をすることができたことが大きな評価であったと思う。

他市の先進事例をうかがうことができたことは、特に現状についての振り返りと新たな取り組みに向けて、検討していく上で大いに学びのあるものになった。

(4) モデル事業で得られたノウハウ等

各種研修によって、市民に対する共同募金運動への関心を呼びかける方法と、現在、共同募金運動に協力いただいている団体への改めての配分のされ方の説明の必要性、また、配分を受けている団体にも共同募金運動を呼びかけていく方法について学び、本会として取り組む際の参考となった。

4 平成 23 年度以降の予定

2 か年の事業が終了した際は、助成事業の成果を今後どのように発展・普及させていくのかの展開方策を具体的にご記入ください。1 か年目の事業が終了した場合は、2 か年目の事業計画をご記入ください。

小学生を対象とした募金箱コンクールの実施

募金推進委員（募金活動を中心に実施する団体）と募金配分団体との交流の場をつくる